２０１９年　５月　１９日

主　日　礼　拝

	①８時半	②10 時半	③19 時
司　会	①石井師	②白川　達男兄	③石井師
奏　楽			
祈　祷	①石井師	②石井　秀人兄	③石井師
賛　美	聖歌５８０番*&～あなたがたがわたしを選んだのではない～*		
詩篇２３篇			
聖　書	①ヨハネによる福音書３章34～36,４章９～14節		
	②コリント人への第二の手紙９章６～９節		
特別賛美	ソウルマティックス		
メッセージ	①「主のご愛は、ハンパない」大川従道牧師		
	②「喜んでささげる恵み」石井　潤牧師		
献　金	聖歌５８１番　*&　～慕い求めます・感謝の心～*		
祝　祷			〔献金当番：渡辺姉・和田姉〕
お知らせ			【司会者】
賛　美	*～喜びがある～*		

礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！

《今週のお知らせ》

１．本日は「ファミリーの日」のため、第二礼拝後の昼食はありません。

２．今週の祈祷会：☆早天祈祷会、明日朝６時～。☆定例の祈祷会、木曜午前10 時半～、ルリ子先生。夜７時半～、川村喜輝師。☆準備祈祷会、土曜夜８時。

３．土曜午後２時～、千曲市の小山姉宅にてバイブル・スタディが行われます。

４．来週の日曜午後は西田先生のご指導による聖歌隊の練習が行われます。

5/27(月):長野家庭集会　6/2(日):誕生祝福式/執事会　9(日):聖餐式/聖歌隊
16(日):ナイト de ライトコンサート(上田文化会館)

一年に一回聖書を完読できる！*Bible Reading Plan*〔5/19～/26〕

Date	日		月		火		水		木		金		土		日	
旧約	列王紀下 23－25章		歴代志上 1･2章		3－ 5章		6･ 7章		8－ 10章		11－ 13章		14－ 16章		17－ 19章	
新約	ヨハネ7: 1－31		7:32 －53		8:1 －20		8:21 －36		8:37 －59		9:1 －23		9:24 －41		10:1 －21	
チェック	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新

「喜んでささげる恵み」

～恵みとは何か？～

「このことをよく覚えておいていただきたい。けちけちしてささげる人は、大きな祝福を受けることができない。気前よくささげる人は、豊かな祝福を受ける。だから、嫌々ながらではなく、また強制されてでもなく、自発的に自分で決めてささげなさい。神は喜んでささげる人を祝福してくださるからである。神は、あらゆる恵みをあふれるばかり与えてくださり、あなたがたがいつでも、あらゆることに満ち足りて、すべての神の働きに心からささげることができる者にしてくださるのである。」　　コリント人への第二の手紙9章6～8節〔現代訳聖書〕

「恵み」は、パウロのテーマになっていました。聖書の中で、パウロ以上に「恵み」という言葉を多く用いた人物はいません。新約聖書では「恵み」は「カリス」というギリシャ語が使われていますが、この「カリス」ということばが全く登場しない書物もありますが、用いられている、ルカ、ヨハネ、使徒行伝、ヘブル書、ペテロの第一、第二、ヨハネ第二、第三、ユダ、黙示録には１回から多くても17回位しか登場せず、合計しても、パウロの手紙の半分にも及びません。それほどにパウロはこの「恵み」という言葉を意識して用いていたと言えます。

「恵み」というのは、下の存在が上の存在に与えられる「恩寵」として聖書では用いています。受けるに値しない者が一方的に与えられるもの。条件を満たせば与えられるというものではありません。ただで頂くものです。イエス様を通して与えられる救いもその一つです。

本日の聖書箇所では、「お捧げもの」＝「献金」について書かれています。「献金」は実際に私たちのお金を捧げることですが、これは、お金のことばかりではなく、私たちの時間も労力も神様の働きのために喜んで捧げるということにもつながってくると思います。それは、決して強制されて行なうことではなく、喜んで、自発的になされるということ。しかし、神の祝福を受けたければ喜んで犠牲を払う必要があるとパウロは教えます。

お金も時間もエネルギーも私たちにとってもっとも必要なものです。だからこそ捧げることを求められるのかもしれません。ではこの部分での「恵み」とはどんなものなのでしょうか？

８章でパウロはマケドニアの諸教会でなされた神の「恵み」について紹介し、その「恵み」のわざをコリントの教会でもやり遂げて欲しいと伝えています。「恵み」とは神様から私たちに与えられるものですが、その「恵み」に与るために私たち自身をお捧げする必要があるとすすめています。私たちの神様は私たちが何かを捧げないとその「恵み」を与えないというようなケチな方ではありませんが、私たち自身の祝福のために、捧げることで開かれる「恵み」の世界を体験して欲しいと願っています。この世のものに執着している間は、決して見えない世界があるのです。頂くことだけが「恵み」なのではなく、捧げること、その捧げる心を持つこと自体が「恵み」そのものであるということを伝えたかったのではないでしょうか。